



2011年7月8日発行

2010年の国税調査の結果が発表されました。それによると30～34歳で未婚の人は男性で46.5%、女性は33.3%になりました。

戦争直後の1950年は男性では8%でした。1980年に20%を超えてから一気に加速した感があります。女性の未婚率が高まったのはこの20年の傾向で1980年までは9.1%と低いにもかかわらず1990年に13.9%、2000年に26.6%と急上昇し、今回2010年には33.3%まで20ポイント近く上昇しました。

独身者で結婚を望んでいる人は男女とも9割にのぼるといわれています。ただ、適当な相手が見つからない点、雇用や収入が安定していない等、今の世相を反映した理由で結婚しない人が多いようです。特に男性には「年収300万円の壁」があります。未婚が増えているということは家族構成の中の1人暮らし(単身世帯)が増えていることと表裏一体です。今回の調査ではとうとう「1人暮らし」が31%と「夫婦と子供」の29%をぬいて首位になりました。1人暮らしの気楽さに安住していると加齢とともに孤独がしのびよる現実がいつの間にかすり替わるのです。

高度成長期の豊かな時代に育ってきた若者は今の生活の質をおとせないと考えるでしょうが、まず一歩踏み出さないと少子化社会は改善できません。

3高(高身長・高収入・高学歴)でなくとも2人で働いて子供を育てることができれば社会はきっと認めてくれ、将来の精神的安定として実を結ぶことでしょう。貴女の身近に素敵だなどと思う男性はいませんか。ほんの少し勇気をもてば、しばらくは生活、子育て、仕事と大変でしょうがこの高齢化社会の中で心細さを味あわなくてすむのではないのでしょうか。未婚者の高齢化が進みます。問題は独居者が要介護や病気になった時、社会がどう対応してくれるかということではないのでしょうか。社会の対応に期待がもてないと将来に対する不安が増すばかりです。女性も20代～30代前半に自分の卵を凍結し、40歳になってからの結婚と妊娠に備えることを前向きに考えることも大切でしょうし、これからそういう女性が出現することも考えられます。また、未婚女性への精子提供も許可されれば、相手なしでシングルマザーにもなれます。女性は男性と違い「生む」性ですから、男性以上に道は開けているのではないのでしょうか。

